

国際カンファレンス

風景のアヴァンギャルド

風景のポストモダン

Avantgarde and Postmodern in Landscape

主催 ■ 立命館大学国際言語文化研究所「21世紀の風景論研究会」

日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(B)(課題番号:22320031)「‘認識’と‘構築’の自然の風景像—21世紀の風景論」

立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

2013年10月19日(土)10:00-18:00

参加費・事前申込不要

9:30 受付

【Part 1】 10:00-12:30

要 真理子 (大阪大学) 「イギリスモダニズムに見る都市の風景」

林 道郎 (上智大学) 「『風景』の臨界点—シミュラクル・環境・非風景—」

仲間 裕子 (立命館大学) 「風景の結晶化、風景の標本化」

【Part 2】 13:30-17:00 (翻訳資料あり)

吉岡 洋 (京都大学) 「液状化する時空間—ポストモダン風景論—」

辻 成史 (大阪大学) 「風景 そのTextureとPortrayal」

ポール・エドワーズ (イースト・アングリア大学) 「ウインダム・ルイスと自然」

ジョス・デ・ムル (エラスムス大学) 「NextNature. アナログな崇高とデジタルな風景」

【Part 3】 17:00-18:00 (通訳あり)

パネル・ディスカッション 司会:前田 茂 (京都精華大学)



立命館大学国際言語文化研究所の「21世紀の風景論研究会」は、2011年度に国際シンポジウム／フォーラムを開催し、風景と自然の認識というテーマのもと、知覚・感性・自然の再定義についてグローバルな見地から議論してきました。研究会は最終年度を迎え、当カンファレンスでは、風景表現によって時代の自然観を切り開いた作品や動向を歴史的に回顧し、またエコロジーやテクノロジーが提起する諸問題に立ち向かう今日のポストモダン時代の自然表象から、新たな自然観を模索します。

【報告者略歴(報告順)】

要 真理子 Mariko Kaname

大阪大学招へい准教授。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程芸術学専攻修了。博士(文学)。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師、愛知産業大学大学院准教授を経て、2011年から現職。専門は美学・芸術学、美術批評。著書に『ロジャー・フライの批評理論—知性と感受性の間で』(東信堂、2005)、『イメージ(上) イメージとは何か』(ナカニシヤ出版、2011)、『イメージ(下) イメージと私たち』(ナカニシヤ出版、2012)他、共訳にウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』(晃洋書房、2007)他。現在、「21世紀の風景論研究会」(立命館大学)、「自然学 | SHIZENGAKU」(ロンドン大学—成安造形大学)などの国際プロジェクトに参加している。

林 道郎 Michio Hayashi

1959年函館生。上智大学比較文化学部助教授。1999年コロンビア大学大学院美術史学科博士号取得。2003年より現職。専門は美術史および美術批評。主な著作に『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』(全7冊、ART TRACEより刊行中)。「零度の絵画—RRの眩き」(ロバート・ライマン—至福の絵画展、2004年)、「光跡に目を澄まして—宮本隆司論」(宮本隆司写真展、2004年)。共編書に*From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989* (New York: The Museum of Modern Art, 2012)などがある。『アジアのキュビズム』展(東京国立近代美術館、2005年)には、キュレーターとして参加。東京在住。

仲間 裕子 Yuko Nakama

立命館大学教授。ベルリン自由大学美術史学科修士課程を経て、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。主な著書・論文に*Caspar David Friedrich und die Romantische Tradition, Moderne des Sehens und Denkens* (Reimer Verlag, 2011)、『C.D.フリードリヒ、画家のアトリエからの眺め—視覚と思考の近代』(三友社、2007年)、「自然を発見する?—ロマン主義的表象の再考」(『思想』、岩波書店、2009年)、「ポロック特集:ドリップ・ペインティングの主題」(『ユリイカ』、青土社、1993年)他。招聘講演に“Harmonie und Diskrepanz: Friedrichs Vorstellung von Natur und die Kunst der Gegenwart” (Alfried Krupp Wissenschaftskolleg, Greifswald, Internationale Fachtagung, 2011)他。*Art in Translation* (ゲティ財団) 諮問委員等。

吉岡 洋 Hiroshi Yoshioka

1956年京都生。甲南大学教授、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授を経て、現在京都大学文学部・文学研究科教授(美学芸術学)。専門は美学、情報文化論。主な著書に、『情報と生命—脳・コンピュータ・宇宙』(新曜社、1993年)、『〈思想〉の現在形—複雑系・脳空間・アフォーダンス』(講談社、1997年)など。現代思想、現代芸術、メディア文化論関係の論文・評論など多数。訳書にR.ローティ『哲学の脱構築—プラグマティズムの諸帰結』、H.フオスター『反美学』、M.ボスター『情報様式論』、B.マズリッシュ『第四の境界—人間機械(マン・マシン)進化論』など。批評誌『ダイアテキスト(Diatxt.)』(京都芸術センター刊)1~8号、『ヨロボン(Diatxt./Yamaguchi)』(山口情報芸術センター刊)編集長。『京都ピエンナーレ』(2003)、「岐阜おおがきピエンナーレ」(2006)総合ディレクター。日本記号学会会長。美学会副会長。

辻 成史 Shigebumi Tsuji

1933年東京生。1958年東京芸術大学美術学部芸術学科卒業。1960年立教大学大学院(キリスト教学科)修士課程終了(文学修士)。1964年プリンストン大学大学院美術考古学博士課程修了(Doctor of Philosophy)。1968年清泉女子大学文学部助教授~教授。1977年大阪大学文学部助教授~教授。1995年大阪大学名誉教授、金沢美術工芸大学大学院芸術学専攻教授。2000年大手前大学人文科学部教授、西宮市大谷記念美術館館長(2006年3月まで)。1991年トルコ共和国地中海沿岸の古代・中世沿岸都市とその建築・美術の調査に着手。現在はNPO法人「大阪美術市民会議」理事長として、とくに上町台地を中心に、大阪の新たな歴史・文化的風景の創出に取り組んでいる。

ポール・エドワーズ Paul Edwards

バース・スパ大学英語学・文化学部元教授。英国モダニズムの研究者として知られ、2013年より、イースト・アングリア大学で教鞭を執る。著書に、*Wyndham Lewis: Painter and Writer* (Yale University Press, 2000)他多数。最近では、ナショナル・ポートレート・ギャラリー(ロンドン、2008年)とホワン・マルク財団(マドリッド、2010年)で開催されたウイングダム・ルイスの大規模な回顧展を手掛けた。近く、出版予定のルイス選集(Oxford University Press)では、監修者として携わっている。モダニズム作品では、ルイス、ヴォーティシズムの他、T.E.ヒューム、C.R.W.ネヴィンソン、第一次世界大戦時の文学に関して、さらにはトム・ストッパードの戯曲やイアン・マーキュアンの小説など現代作家の作品についても論考を発表しており、モダニズムを超えて、その守備範囲は広い。

ジヨス・デ・ムル Jos de Mul

エラスムス大学(ロッテルダム)哲学部教授。当大学、情報とコミュニケーションテクノロジーの哲学研究所所長。ミシガン大学アナーバー校および復旦大学(上海)においても教鞭を執り、プリンストン高等研究所学際プログラムに関わっている。2007年から2010年まで国際美学会会長。著書に *Romantic Desire in (Post)Modern Art and Philosophy* (State University of New York Press, 1999)、*The Tragedy of Finitude. Dilthey's Hermeneutics of Life* (Yale University Press, 2004)、*Cyberspace Odyssey* (Cambridge Scholars Publishing, 2010)、*Towards a Virtual Ontology and Anthropology* (Cambridge Scholars Publishing, 2010)、*Destiny Domesticated. The Rebirth of Tragedy Out of the Spirit of Technology* (State University of New York Press, 2014)他。Praemium Erasmianum Research Prize とSocrates Prizeの受賞者。著書は12か国語以上に翻訳されている。



【カンファレンス会場】

立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンスルーム

【交通アクセス】

http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html

【キャンパスマップ】

http://www.ritsumei.jp/campusmap/index_j.html#KINUGASA

ご来場には京都市バスまたは京福電鉄をご利用ください。

市バス 12・15・50・51・55・59号 立命館大学前 下車すぐ
市バス 101・102・204・205号 わら天神前 下車徒歩10分
京福電鉄(嵐電) 等持院駅 下車徒歩10分

ご昼食はキャンパス内の一部の食堂・購買部もご利用いただけます。

【お問い合わせ】 「21世紀の風景論研究会」事務局(立命館大学国際言語文化研究所内)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8164 MAIL lnscp21@st.ritsumei.ac.jp